

▼ ファームウェア アップデート手順書

FT-950シリーズ用

YAESU
The radio

いつも最高の状態でご愛用頂くために、最新のファームウェアにアップデートされる事をお薦め致します。本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ※¹と市販のシリアルケーブル※²をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっています。（“ファームウェア”とは、本体内部で動作しているソフトウェアの事です。）

（お客様での作業は、本手順書を最後までよくお読みになり、作業の流れをご理解頂いた上で、ご自身の責任において行って下さい。正しく作業が出来なかった場合の不具合につきましては、弊社にて有償で保守を承ります。）

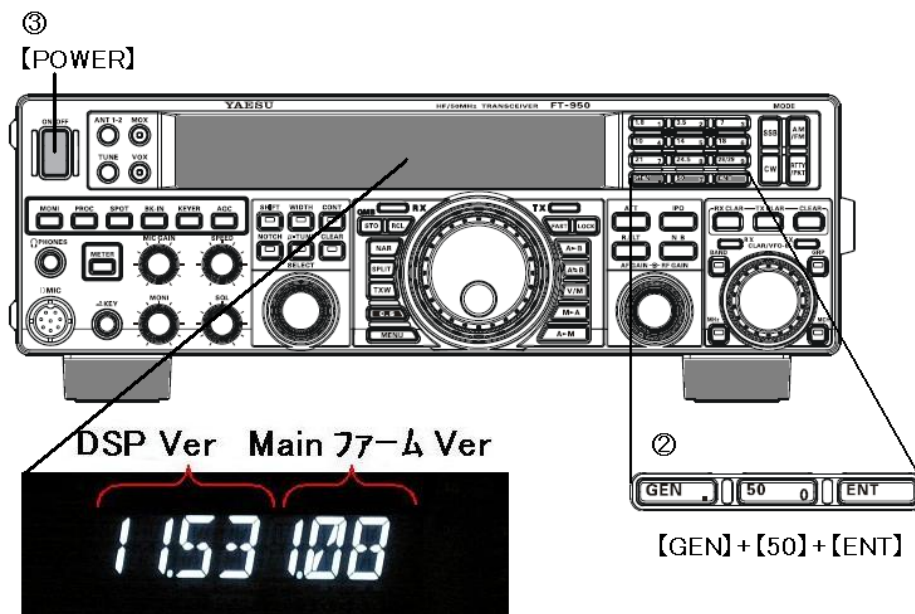
1. ファームウェアのバージョンを確認します。

■ ファームウェアのバージョンを表示させます。

手順①.（市販の）直流13.8V安定化電源（以降“安定化電源”と表記）を用意し、付属の専用DCケーブルを接続。安定化電源のスイッチを入れます。（まだ本機の電源スイッチは入れません。）

手順②. 【50】、【GEN】、【ENT】3つのキー位置を確認します。

手順③. 手順②のキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。



■ この手順によりファームウェアのバージョンが一定時間だけ表示します。

2. 最新ファームウェアのバージョンをWEBで確認します。

■ 当社のホームページよりファームウェアの最新情報を確認して、上記表示よりも数字が更新されていたら、続く手順によりアップデートすることをお薦めします。

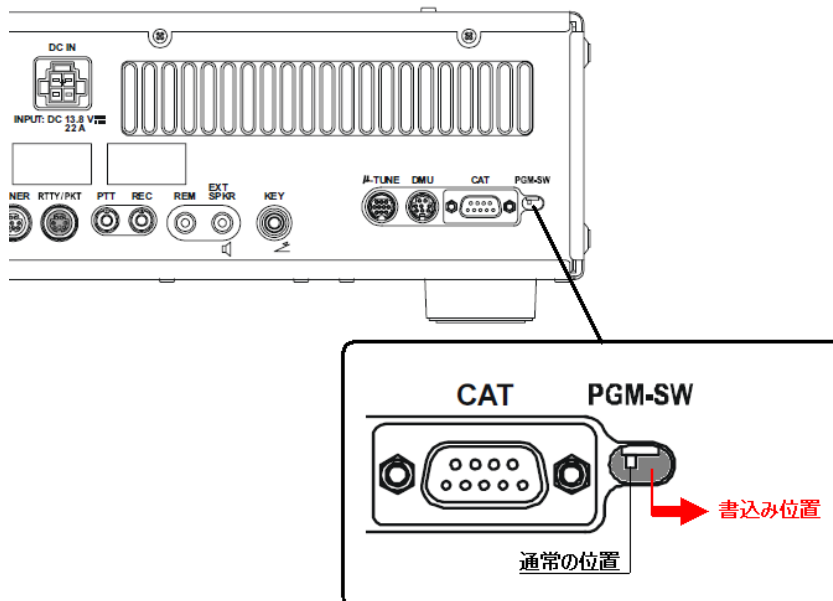
■ FT-950は、以下2項目それぞれに専用のファームウェアがありますので、必ず同時期の物がアップデートされているかをご確認下さい。

- ①. メインファームウェア（システム本体のファームウェアです。）
- ②. DSPファームウェア（DSPに関するファームウェアです。）

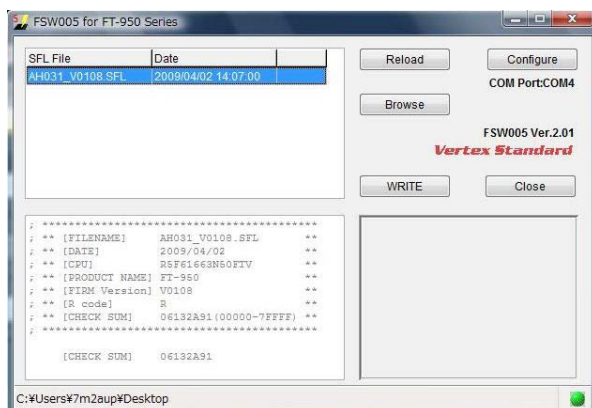
3. ファームウェアが更新されていたら次の手順でアップデートします。

①. メインファームウェアの更新

- ・ 前面パネルの【POWER】スイッチを長押しして電源を一旦切ります。続いて接続されている安定化電源のスイッチも切り、本体からDCケーブルも抜き去ります。
- ・ 本機背面にあるメインファームウェア書き込み用の切替スイッチ（PGM-SW）を、通常の位置とは反対の“書き込み位置”に切替ます。（切替スイッチはシャーシ奥にあり、頻繁な操作に耐えるものではないため、非金属のようじなどを使用して無理な力を加えないよう取扱にはご注意ください。）



- ・ 予め用意されたパーソナルコンピュータ（以降“PC^{※1}”と表記）と本体背面CAT端子間を、用意されたシリアルケーブル^{※2}で接続し、さらに安定化電源からのDCケーブルを接続。安定化電源のスイッチのみを入れます。本機の電源は入れないままで、接続したPC^{※1}を起動します。（^{※1,2}の詳細は、本説明書の“5. 用意するものについて”をご参照下さい。）



- ・ PC^{※1}の転送ソフト FSW005.exe を起動したら、FSW005.exe 上で同時にダウンロードした最新のファーム・ファイルを選択し、[WRITE] をクリック。本機に転送します。（実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“6. トラブルシュート”をご参照下さい。）転送時間は、ご用意頂いたPC^{※1}の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフが

ゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。

- ・ 転送が完了したら、接続されている安定化電源のスイッチを切り、本体からDCケーブルを抜き去ります。次にシリアルケーブル^{※2}を本体から外して、本機背面にあるメインファームウェア書き込み用の切替スイ

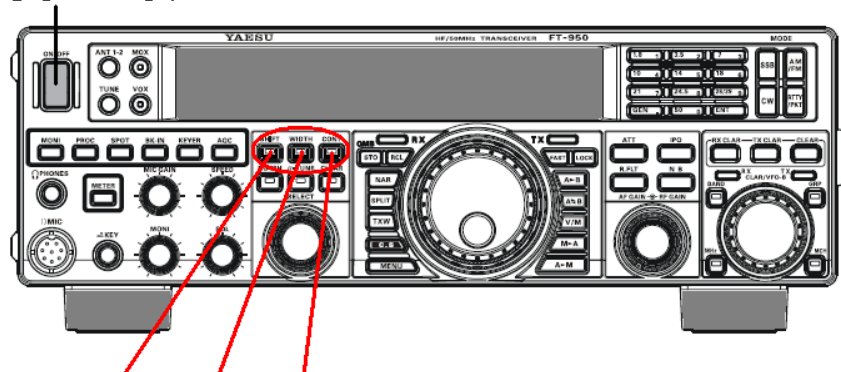
チ (PGM-SW) を元の “通常的位置” に戻します。

- ・ 再び、安定化電源からの D C ケーブルを本体に接続接続し、安定化電源のスイッチを先に入れ、本機前面パネルの [F A S T] キーと [L O C K] キーを同時に押しながら同前面パネルの【 P O W E R 】スイッチを O N としてリセット・スタートさせます。
- ・ 最後に前面パネルの【 P O W E R 】スイッチを O F F として、1 項のバージョン確認方法によりファームウェアが更新されたことが確認出来たら底ケースを元に戻して作業完了です。

②. D S P ファームウェアの更新

- ・ 本文 1 項のバージョン確認方法により、メインファームウェアの更新（もしくは最新であることを確認）が完了したら、続いて D S P のファームウェアを更新（もしくは最新であることを確認）します。D S P のファームウェアの更新作業は、メインファームウェアの作業で操作した背面スイッチの操作は不要です。
- ・ 本機前面パネルの【 P O W E R 】スイッチを切り、つづいて安定化電源のスイッチも切り、本体から D C ケーブルを抜き去ります。予め用意された P C ※¹ と、本機背面 C A T 端子間を、ご用意頂いたシリアルケーブル ※² で接続し、P C ※¹ を起動します。
- ・ 以上の準備が完了したら、安定化電源からの D C ケーブルを接続。本機の電源は入れず、安定化電源のスイッチのみを入れます。下図を参考に、①【 S H I F T 】、【 W I D T H 】、【 C O N T 】の 3 つのキーを押しながら前面の ②【 P O W E R 】スイッチを入れます。

(②【 P O W E R 】)

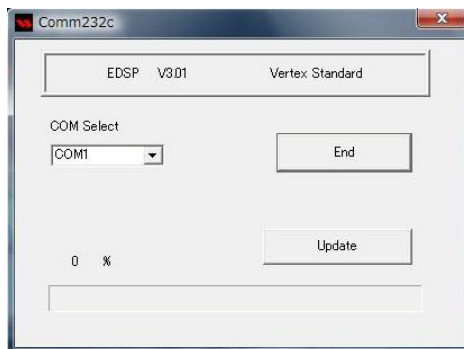


①【 S H I F T 】+【 W I D T H 】+【 C O N T 】
3 つのキーを同時に押しながら

③



②【 P O W E R 】スイッチを O N すると ⇒ 表示



- ・ 周波数ディスプレイに “ D S P P R G ” と表示が現れたらファームウェアの転送ソフト “ E D S P - 3 0 1 . e x e ” をクリックして起動し、[U p d a t e] をクリック。対象の “ A H 0 3 1 H _ V X X X 拡張子 out ” ファイル最新を選択して [開く] をクリックすると、P C ※¹ からの書き込みが始まります。(実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末

の“6.トラブルシューティング”をご参照下さい。)

- ・ 転送時間は、ご用意頂いたPC※¹の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。
- ・ 転送が完了したら本機前面の【POWER】スイッチにより電源を切り、RS232Cケーブル※²を本機から外し、PC※¹のファームウェア転送ソフトを終了させます。(※^{1,2}の詳細は本説明書の“5.用意するものについて”をご参照下さい。)
- ・ 最後に、本機前面パネルの[FAST]キーと、[LOCK]キーを同時に押しながら同前面パネルの【POWER】スイッチをONとしてリセット・スタートさせて完了です。

4. アップデートされたバージョンに対応した取扱説明書を取得します。

アップデート作業後は、本機に対応した取扱説明書(PDF)をダウンロードしてご確認ください。

5. 用意するものについて

■ ファームウェア転送ソフトのセットアップ。

この手順書では、本機内にある2つのシステムにアップデートを行う必要があるため、お客様がご用意頂く、パーソナルコンピューター(PC※¹)には、以下2つの転送ソフトをダウンロードしてセットアップしておきます。弊社のWEBページより、それぞれのZIPファイルをPC※¹内に適当に作ったフォルダにダウンロードします。、フォルダ内に保存したZIPファイルを解凍して、展開した全ファイルを、インストールするPC※¹のデスクトップなどにコピーします。

- ①. メインファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“FSW005.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH031_VXXX 拡張子 SFL” ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。
- ②. DSPファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“EDSP-301.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH031H_VXXX 拡張子 out” ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。

■ アップデート用に適したパーソナルコンピューター(PC※¹)の条件は・・・

- ・ COM(RS-232C)PORTのあるパーソナルコンピューター
- ・ Microsoft Windows 2000以上のオペレーティング・システム
- ・ ファームウェアとその転送ソフトインストール用に30MB以上の空き容量のあるハードディスク
- ・ 256MB以上のRAM
- ・ 1024×768の画面解像度、256色以上をサポートするビデオカードとディスプレイ

■ 作業に適したシリアルケーブル※²は・・・

使用可能なシリアルケーブル※²は、市販のRS-232C規格で、フル結線のストレートタイプをご用意下さい。市販品の多くは、コネクタ部のオスメスが合致しますが、まれにオスメスが逆のタイプもありますので、事前にご確認ください。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば、同環境で作業は可能です。

6. トラブルシューティング

■ 弊社のホームページでダウンロードできるファームウェアは圧縮(ZIP)ファイルです。

取得したZIPファイルは、解凍した展開した全ファイルを、インストールするPC^{※1}のデスクトップなどに適当なフォルダを作り、コピーして使用します。(解凍して展開された転送ソフトのEXEファイルをそのままクリックしても起動しません。)

■ 転送ソフトを起動しても、COM (RS-232C) PORT を認識しない場合は・・・

接続したシリアルケーブル^{※2}のCOM (RS-232C) PORTのCOM番号の優先順位が低い場合などでは、そのまま転送ソフトを起動しても COM port Error 表示が出て転送できない場合があります。その場合には、メインファームウェアの転送ソフト“FSW005.exe”では、転送ソフト画面内の [Configure] の設定により、接続したシリアルケーブル^{※2}のCOM番号と同じ物を選択することで転送が実行されます。

同じく、DSPファームウェアの転送ソフト“EDSP-301.exe”を起動しても COM port Error 表示が出て転送できない場合は、転送ソフト画面内の“COM Select”により、接続したシリアルケーブル^{※2}のCOM番号と同じ物を選択することで転送は実行されます。

■ COM (RS-232C) PORT がないパーソナルコンピュータの利用について・・・

ノート型や、デスクトップで小型の物などでは、USB PORT だけで、COM (RS-232C) PORT が無い場合がありますが、市販のUSBシリアル変換ケーブルを利用する事で作業は可能です。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば同環境で作業が可能です。

接続したUSBシリアル変換ケーブルで増設したCOM (RS-232C) PORTを認識しない場合の多くは、パーソナルコンピュータのオペレーティング・システムが、USBシリアル変換ケーブルの接続に伴い、自動的にデバイスドライバを設定されたままの場合が多く、オペレーティング・システムのデバイスマネージャでは増設したCOM PORTが確認できていても、転送ソフトがそのCOM番号を認識できない場合があります。その時には自動で設定されたデバイスドライバをオペレーティング・システムのデバイスマネージャで削除した後、接続したUSBシリアル変換ケーブルを一旦外し、ケーブルメーカーのWEBサイトで、使用するオペレーティング・システムに対応したUSBシリアル変換ケーブルの最新のデバイスドライバを入手してインストールした後に、改めてUSBシリアル変換ケーブルを接続することで正常に認識することが報告されています。

本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ^{※1}と市販のシリアルケーブル^{※2}をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっておりますが、本手順書の要領が不明なまま作業を行うと、本機が起動不能となるなど重大な不具合を引き起こしますので、本書を最後までよくお読みになり、ご自身の責任において行って下さい。アップデート作業は、お客様のご希望により、弊社でも有償で作業を承ります。

八重洲無線株式会社

アマチュア カスタマーサポート

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8

天王洲パースサイドビル 11F

TEL 03-6711-4045 FAX 03-6711-4272